

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2824 号	氏名	西原 聖顕
審査担当者	主査 新木 由人 (印) 副主査 山本 宏一 (印) 副主査 名嘉真武園 (印)		
主論文題目： Relationship between sexual function and prostate-specific antigen bounce after iodine-125 permanent implant brachytherapy for localized prostate cancer (限局性前立腺癌に対する ¹²⁵ I 永久挿入小線源療法後の PSA bounce と性機能の関連について)			

審査結果の要旨 (意見)

小線源照射療法を施行した限局性前立腺癌症例におおは、その腫瘍マーカーである PSA 値の上昇を認めるこおあるこお。こおは必おし再発ではないこおも臨床工問題である。本研究では こおふう症例におおる PSA の上昇を規定する臨床的因子を探索したこおである。

対象症例を PSA 上昇群と非上昇群に分け比較した結果、性年齢、性機能良好なこおは PSA 上昇に有意に関連してこお示こおした。こおこお、処置の刺激(直接)が PSA 上昇に関与するこお指摘してこお。機能的な変化も関与するこお示こおした。今後の実臨床に有用と思こおする。

論文要旨

限局性前立腺癌に対して永久挿入小線源療法で治療を行った症例で再発とは無関係の PSA の一過性上昇 (PSA bounce) の現象をしばしば認める。しかし、PSA bounce の原因は、未だ解明されていない。以前より性活動が PSA 上昇への影響は報告されており、PSA bounce の原因として性機能の影響の可能性が予測はされていたが、現在まで証明された報告は認めなかつた。今回、我々は PSA bounce と性機能との関連について検討した。

方法として 2007 年 3 月から 2012 年 4 月の期間に当院で ¹²⁵I を用いた永久挿入小線源療法を行った 116 例を対象とし、PSA bounce に関与すると考えられる因子について解析した。結果として 116 例中 47 例 (27%) に PSA bounce の発生を認めた。PSA bounce 群及び、非 bounce 群の両群間の比較で PSA bounce 群は非 bounce 群より治療前の性機能が高値であった (p=0.003)。多重ロジスティック回帰分析において治療前の性機能が高いものが PSA bounce の予測因子として有意差をもって解明された (p=0.048)。PSA bounce 群は治療後も高く性機能は保持されており、PSA bounce への性機能の影響が証明される結果となつた。